

令和4年度 新子どもかがやきプラン推進委員会における主な意見

1 開催日時

第1回	令和4年	7月12日（火）	10:00～11:40（集合及びオンライン開催）
第2回	令和4年	9月16日（金）	10:00～12:00（集合及びオンライン開催）
第3回	令和4年	12月14日（水）	10:00～12:00（集合及びオンライン開催）
第4回	令和5年	2月8日（水）	10:00～12:00（集合及びオンライン開催）

2 アクションプラン2023に係る主な意見

重点施策1 職業教育の充実と就労支援の強化のための体制整備について

○特別支援学校高等部の職業教育の充実

- ・就労支援コーディネーターの力を借りることができることは大変ありがたい。どの学校にもニーズはあると思う。
- ・在宅就労に向けた取組について、県内だけではなく県外の企業も開拓できるとよい。
- ・在宅実習の取組について、とてもよい取り組みであるため、企業等だけではなく保護者にももっと周知できるとよい。

重点施策2 障がいのある児童生徒のニーズに対応した学びの場の整備について

○特別支援学校設置基準を踏まえた学習環境の整備

- ・子どもたちが楽しく生活できるようにするためにも、特別支援学校設置基準を満たすように学校を整備してほしい。
- ・特別支援学校設置基準に関して、古くからある既存校の整備をぜひ進めていただきたい。

○発達障がい等のある児童生徒の特性を踏まえた支援の充実

- ・高等学校の通級による指導について、自校型は高等学校の教員が指導の様子を見ることができ、担当教員の支援方法を学ぶことができるよさがある。ぜひ自校型の取組も推進してほしい。
- ・高等学校段階で早期に支援が必要な生徒を把握する必要があるため、就労支援コーディネーターが高等学校と連携できるとありがたい。

重点施策3 学びの場を支える教員の専門性の向上について

○小学校、中学校、高等学校等における教員の専門性の向上

- ・教員の専門性の向上が重要である中、研修対象者の幅を広げて、通級を担当している教員が誰でも研修を受講することができ、大変よい取り組みである。

○特別支援学校における教員の専門性の向上

- ・校務支援システムを導入することで、業務軽減につながり、子どもたちと向き合う時間がとれるようになることはとてもいい取組であり、ぜひ進めてほしい。

新子どもかがやきプラン アクションプラン 2023 (案)

地域と共に創る 新たな学びのスタイル

- ◆平成29年3月に策定した「新子どもかがやきプラン」に基づき、令和5年度に取り組む施策を示しました。
- ◆インクルーシブ教育システムの構築に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じて、地域の多様な学びの場を柔軟に活用できる新たな「学びのスタイル」づくりに取り組みます。
- ◆そのための基盤となる、新たな「学びの場」の整備に取り組みます。



重点施策1 職業教育の充実と就労支援の強化のための体制を整備します

施策内容

- 各地域の状況に応じ高等特別支援学校機能を整備します。
 - ・可茂特別支援学校において、喫茶サービスやビルクリーニングなど高等特別支援学校で実施している専門教科を取り入れた教育課程を編成し、作業学習として実施します。
 - ・東濃地域、飛騨地域について、学校規模、整備内容について引き続き検討します。
- 特別支援学校高等部の職業教育を充実します。
 - ・可茂特別支援学校へ就労支援コーディネーターを配置し、就労支援を充実します。
 - ・関連企業等と連携して専門教科テキストの内容を見直し、音声や動画等を取り入れた電子書籍化を引き続き進めます。 令和5年度：福祉サービス
 - ・肢体不自由及び病弱の特別支援学校高等部生徒の「在宅就労」の実現に向けて、協力企業と連携しながら実習プログラムの充実を図ります。また、本取組みについて県内企業への周知を進めます。

重点施策2 障がいのある児童生徒のニーズに対応した学びの場を整備します

施策内容

- 特別支援学校設置基準（令和3年9月24日公布）を踏まえて学習環境を整備します。
 - ・大垣特別支援学校：寄宿舍棟を活用し、暫定的に普通教室を整備します。
 - ・岐阜本巣特別支援学校：基本計画の策定に着手し、未改修である南館3、4階を活用する整備方法を検討します。
 - ・飛騨特別支援学校及び高山日赤分校：基本計画の策定に着手し、設置基準を満たすための整備方法を検討します。
 - ・郡上特別支援学校：1校舎体制に向け、関係機関等と連携し、整備を進めます。
 - ・東濃特別支援学校：設置基準を満たすための整備方法を引き続き検討します。
 - ・揖斐特別支援学校：今後の児童生徒数の推移を見ながら整備の必要性を検討します。
- スクールバス利用希望者増加による座席数の確保及び運行ルートの変更に対応するため、スクールバスを増配備します。 令和5年度：3台増配備 計63台運行
- 医療的ケアを必要とする児童生徒の支援を充実します。
 - ・医療的ケアを必要とする児童生徒が在籍する全ての特別支援学校において、安全に校外学習等に参加できるよう、同行する看護師を配置します。



○長期入院やそれに伴う自宅療養を必要とする高校生に対する支援を充実します。

- ・長期入院やそれに伴う自宅療養を必要とする高校生の遠隔教育において、テレプレゼンス機器等を活用し、学習への主体的な参加や学習支援の充実を図ります。

○聴覚障がいのある幼児児童生徒に対する支援を充実します。

- ・飛騨特別支援学校に聴覚障がい支援専任教員を加配し、聴覚障がいのある幼児を対象とした飛騨地域の幼児教室や保護者向け相談会を継続的に開催し、早期からの聴覚障がい教育によるコミュニケーションの力の育成を図ります。
- ・飛騨特別支援学校及び恵那特別支援学校のセンター的機能聴覚部門の導入により、小中学校等の教職員や保護者に対し専門的な相談体制を整え、研修会や相談会を開催するなど支援体制を強化します。
- ・岐阜県難聴児支援センターとの連携により、聴覚障がいのある幼児児童生徒の医療や福祉と連携した支援体制を構築します。

○高等学校における通級による指導を充実します。

- ・岐阜地域と美濃地域において、通級担当教員が県立高等学校へ出向いて指導を行う「巡回型の通級による指導」を開始します。

【岐阜地域】拠点校：岐阜北高校 巡回地域：岐阜地区の県立高等学校

【美濃地域】拠点校：関高校 巡回地域：美濃地区の県立高等学校

- ・可茂地域において、「巡回型の通級による指導」の準備を行います。

【可茂地域】拠点校：関高校 巡回地域：可茂地区の県立高等学校

- ・下記実施校において、引き続き自校型通級による指導を行います。

【実施校】山県高校、華陽フロンティア高校、不破高校、東濃高校、東濃フロンティア高校、飛騨高山高校（通）

重点施策3 学びの場を支える教員の専門性を向上します



施策内容

○小学校、中学校、高等学校等における教員の専門性を高めます。

- ・発達障がいのある児童生徒に対する指導力を備えた小学校、中学校の教員をコア・ティーチャーに指名し、コア・ティーチャーによる実践的な通級担当教員の養成研修を実施します。
- ・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校の教員が、発達障がいのある幼児児童生徒の支援について、教員一人一人の課題に合わせて学ぶことのできる選択型の研修を実施します。

○特別支援学校における教員の専門性を高めます。

- ・特別支援学校教員の業務効率化を図り、学習指導の質を向上するために、校務支援システムの導入に向けて県内6校にて試験的運用を開始します。
- ・コア・スクールにおける専門領域に基づいて、コア・ティーチャーによる指導助言や研修講師等の取組みを引き続き推進します。

※コア・スクール | 岐阜盲学校（視覚障がい）、岐阜聾学校（聴覚障がい）、長良特別支援学校（病弱）、岐阜希望が丘特別支援学校（肢体不自由）、岐阜清流高等特別支援学校（軽度知的障がい）の5校

岐阜県教育委員会

〒500-8570 岐阜市藪田南 2-1-1

TEL 058-272-1111（代表） FAX 058-278-2823